

財 産 目 録

平成31年3月31日現在

I 資産額	4,686,764,265 円
内 基本財産	3,384,294,471 円
運用財産	1,302,469,794 円
II 負債額	233,407,614 円
III 正味財産（資産額－負債額）	4,453,356,651 円

科 目	平成30年度末	
・ 資産額		
(一) 基本財産		
1 土地		
倉敷校地	68,528.14 m ²	337,423,794 円
鴨方校地	15,310.81 m ²	28,135,724 円
里庄校地	21,267.00 m ²	0 円
2 建物	24,924.97 m ²	2,463,689,865 円
3 構築物		9,050,102 円
4 図書		438,127,189 円
5 教具・校具・備品		107,397,993 円
6 車輛		469,804 円
(二) 運用財産		
1 現金預金		289,398,160 円
2 積立金		1,000,111,364 円
3 借地権		600,000 円
4 電話加入権		2,924,514 円
5 施設利用権		1,036,028 円
6 預託金		9,110 円
7 販売用品		1,561,804 円
8 未収入金		5,637,934 円
9 前払金		90,880 円
10 仮払金		1,100,000 円
合 計		4,686,764,265 円
二 負債額		
1 固定負債		
(1) 長期未払金		2,346,300 円
(2) 退職給与引当金		155,142,478 円
2 流動負債		
(1) 前受金		48,196,000 円
(2) 未払金		13,697,156 円
(3) 預り金		14,025,680 円
合 計		233,407,614 円
三 正味財産（資産額－負債額）		4,453,356,651 円

基本財産とは、岡山学院大学及び岡山短期大学に必要な施設及び設備又はこれらに要する財産
 運用財産とは、岡山学院大学及び岡山短期大学の経営に必要な財産です。

平成 30 年 度

平成 30 年 4 月 1 日 から
平成 31 年 3 月 31 日まで

計 算 書 類

資 金 収 支 計 算 書
資 金 収 支 内 訳 表
人 件 費 支 出 内 訳 表
活 動 区 分 資 金 収 支 計 算 書
事 業 活 動 収 支 計 算 書
事 業 活 動 収 支 内 訳 表
貸 借 対 照 表
固 定 資 産 明 細 表
借 入 金 明 細 表
基 本 金 明 細 表

学校法人 原田学園

資金収支計算書

平成30年4月 1日から
平成31年3月31日まで

(単位 円)

収入の部				
科	目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入		229,460,500	229,460,256	244
授業料収入		103,320,000	103,320,000	0
入学金収入		23,500,000	23,500,000	0
教育充実費収入		67,068,000	67,068,000	0
施設設備費収入		30,446,500	30,446,500	0
学外実習手数料収入		5,126,000	5,125,756	244
手数料収入		3,199,000	3,242,400	△ 43,400
入学検定料収入		2,425,000	2,500,000	△ 75,000
試験料収入		474,000	474,000	0
証明手数料収入		300,000	268,400	31,600
寄付金収入		15,390,000	15,004,229	385,771
特別寄付金収入		13,670,000	13,664,229	5,771
一般寄付金収入		1,720,000	1,340,000	380,000
補助金収入		64,827,000	64,124,844	702,156
国庫補助金収入		64,643,000	63,941,000	702,000
地方公共団体補助金収入		184,000	183,844	156
資産売却収入		0	0	0
付随事業・収益事業収入		452,000	450,600	1,400
受託事業収入		402,000	402,000	0
公開講座収入		50,000	48,600	1,400
受取利息・配当金収入		728,800	728,744	56
その他の受取利息・配当金収入		728,800	728,744	56
雑収入		9,464,300	9,467,817	△ 3,517
施設設備利用料収入		853,400	853,240	160
私立大学退職金財団交付金収入		7,210,900	7,210,900	0
その他の雑収入		1,400,000	1,403,677	△ 3,677
借入金等収入		0	0	0
前受金収入		47,666,000	48,196,000	△ 530,000
授業料前受金収入		18,795,000	19,215,000	△ 420,000
入学金前受金収入		10,625,000	10,375,000	250,000
教育充実費前受金収入		12,186,000	12,474,000	△ 288,000
施設設備費前受金収入		5,543,000	5,662,000	△ 119,000
補助活動事業前受金収入		517,000	470,000	47,000
その他の収入		16,670,500	17,178,109	△ 507,609
退職給与引当特定資産取崩収入		9,308,456	9,816,065	△ 507,609
減債引当特定資産取崩収入		4,110,000	4,110,000	0
前期末未収入金収入		2,252,044	2,252,044	0
補助活動事業元入金回収収入		1,000,000	1,000,000	0
資金収入調整勘定		△ 52,621,000	△ 57,153,532	4,532,532
期末未収入金		△ 100,000	△ 4,632,532	4,532,532
前期末前受金		△ 52,521,000	△ 52,521,000	0
前年度繰越支払資金		452,241,379	452,241,379	
収入の部合計		787,478,479	782,940,846	4,537,633
支出の部				
科	目	予 算	決 算	差 異
人件費支出		275,394,703	275,015,745	378,958
教員人件費支出		187,000,000	186,622,533	377,467
職員人件費支出		79,154,703	79,154,703	0
役員報酬支出		1,520,000	1,520,000	0
退職金支出		7,720,000	7,718,509	1,491

教育研究経費支出	126,089,402	124,497,081	1,592,321
消耗品費支出	4,700,000	4,425,315	274,685
光熱水費支出	16,134,525	16,134,525	0
旅費交通費支出	4,400,000	4,376,620	23,380
奨学費支出	12,725,000	12,725,000	0
通信費支出	2,400,000	2,319,300	80,700
印刷製本費支出	3,721,877	3,721,877	0
修繕費支出	31,000,000	30,334,136	665,864
損害保険料支出	960,000	959,116	884
会議会合費支出	180,000	174,780	5,220
行事費支出	30,000	25,880	4,120
負担金支出	2,500,000	2,422,820	77,180
リース料支出	400,000	395,558	4,442
支払報酬手数料支出	40,000,000	39,581,110	418,890
福利費支出	425,000	417,262	7,738
学外実習費支出	4,100,000	4,070,782	29,218
賃借料支出	2,400,000	2,400,000	0
雑費支出	13,000	13,000	0
管理経費支出	74,014,256	72,850,377	1,163,879
消耗品費支出	1,900,000	1,843,705	56,295
光熱水費支出	1,400,000	1,319,302	80,698
旅費交通費支出	1,651,667	1,651,667	0
車輛燃料費支出	200,000	193,110	6,890
通信費支出	3,013,401	3,013,401	0
印刷製本費支出	8,891,870	8,891,870	0
修繕費支出	600,000	552,699	47,301
損害保険料支出	340,000	327,530	12,470
会議会合費支出	130,000	127,463	2,537
公租公課支出	1,000,000	946,250	53,750
負担金支出	2,900,000	2,811,680	88,320
支払報酬手数料支出	20,000,000	19,649,741	350,259
渉外費支出	2,100,000	2,012,155	87,845
福利費支出	1,000,000	903,050	96,950
広告費支出	18,500,000	18,362,333	137,667
賃借料支出	1,700,000	1,641,600	58,400
補助活動事業支出	6,666,318	6,666,318	0
私立大学等経常費補助金返還金支出	21,000	21,000	0
雑費支出	2,000,000	1,915,503	84,497
借入金等利息支出	45,210	45,210	0
借入金利息支出	45,210	45,210	0
借入金等返済支出	4,110,000	4,110,000	0
借入金返済支出	4,110,000	4,110,000	0
施設関係支出	0	0	0
設備関係支出	8,300,000	8,135,746	164,254
教育研究用機器備品支出	6,000,000	5,880,969	119,031
管理用機器備品支出	600,000	558,576	41,424
図書支出	1,700,000	1,696,201	3,799
資産運用支出	1,000,000	1,000,000	0
補助活動事業元入金支払支出	1,000,000	1,000,000	0
その他の支出	21,493,011	21,473,411	19,600
前期末未払金支払支出	20,581,237	20,581,237	0
預り金支出	501,294	501,294	0
前払金支払支出	110,480	90,880	19,600
仮払金支出	300,000	300,000	0
〔予備費〕	(1,175,655)		
	18,824,345		18,824,345
資金支出調整勘定	△ 16,090,880	△ 13,584,884	△ 2,505,996
期末未払金	△ 16,000,000	△ 13,494,004	△ 2,505,996
前期末前払金	△ 90,880	△ 90,880	0
翌年度繰越支払資金	274,298,432	289,398,160	△ 15,099,728
支出の部合計	787,478,479	782,940,846	4,537,633

注1 予備費の使用額

人件費の職員人件費支出	154,703
" の役員報酬支出	40,000
教育研究経費の光熱水費支出	34,525
" の印刷製本費支出	121,877
管理経費の旅費交通費支出	51,667
" の通信費支出	13,401
" の印刷製本費支出	191,870
" の補助活動事業支出	66,318
その他の支出の預り金支出	501,294
合 計	1,175,655 円

資金収支計算書とは、当該会計年度における学校法人全体の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。
 当該会計年度の資金収入のうち前期末前受金及び期末未収入金は、収入の部の控除科目として、収入の部に計上しています。また、資金支出のうち前期末前払金及び期末未払金は、支出の部の控除科目として、支出の部に計上しています。

平成30年度決算において、収入の部では、学生生徒等納付金収入の2億2946万256円、補助金収入の6412万4844円及び前受金収入の4819万6000円が収入の大半を占めています。

また、支出の部では、人件費支出の2億7501万5745円、教育研究経費支出の1億2449万7081円、管理経費支出の7285万377円が大きな割合を占めています。

資金収支内訳表

平成30年4月1日から
平成31年3月31日まで
収入の部

(単位 円)

科 目	部 門	学 校 法 人	岡 山 学 院 大 学	岡 山 短 期 大 学	総 額
			人 間 生 活 学 部	幼 児 教 育 学 科	
学生生徒等納付金収入		0	108,201,495	121,258,761	229,460,256
授業料収入		0	51,450,000	51,870,000	103,320,000
入学金収入		0	8,250,000	15,250,000	23,500,000
教育充実費収入		0	31,500,000	35,568,000	67,068,000
施設設備費収入		0	15,750,000	14,696,500	30,446,500
学外実習手数料収入		0	1,251,495	3,874,261	5,125,756
手数料収入		0	1,584,500	1,657,900	3,242,400
入学検定料収入		0	1,275,000	1,225,000	2,500,000
試験料収入		0	238,000	236,000	474,000
証明手数料収入		0	71,500	196,900	268,400
寄付金収入		0	7,071,567	7,932,662	15,004,229
特別寄付金収入		0	6,711,567	6,952,662	13,664,229
一般寄付金収入		0	360,000	980,000	1,340,000
補助金収入		0	26,157,724	37,967,120	64,124,844
国庫補助金収入		0	26,148,000	37,793,000	63,941,000
地方公共団体補助金収入		0	9,724	174,120	183,844
付随事業・収益事業収入		0	16,800	433,800	450,600
受託事業収入		0	0	402,000	402,000
公開講座収入		0	16,800	31,800	48,600
受取利息・配当金収入		728,536	0	208	728,744
その他の受取利息・配当金収入		728,536	0	208	728,744
雑収入		74,019	1,205,987	8,187,811	9,467,817
施設設備利用料収入		12,000	432,701	408,539	853,240
私立大学退職金財団交付金収入		0	0	7,210,900	7,210,900
その他の雑収入		62,019	773,286	568,372	1,403,677
計		802,555	144,238,073	177,438,262	322,478,890

支出の部

(単位 円)

科 目	部 門	学 校 法 人	岡 山 学 院 大 学	岡 山 短 期 大 学	総 額
			人 間 生 活 学 部	幼 児 教 育 学 科	
人件費支出		6,501,177	117,877,506	150,637,062	275,015,745
教員人件費支出		0	81,933,230	104,689,303	186,622,533
職員人件費支出		4,981,177	35,944,276	38,229,250	79,154,703
役員報酬支出		1,520,000	0	0	1,520,000
退職金支出		0	0	7,718,509	7,718,509
教育研究経費支出		0	61,447,886	63,049,195	124,497,081
消耗品費支出		0	2,438,691	1,986,624	4,425,315
光熱水費支出		0	7,941,602	8,192,923	16,134,525
旅費交通費支出		0	831,400	3,545,220	4,376,620
奨学費支出		0	4,720,000	8,005,000	12,725,000
通信費支出		0	958,908	1,360,392	2,319,300
印刷製本費支出		0	1,699,185	2,022,692	3,721,877
修繕費支出		0	17,224,602	13,109,534	30,334,136
損害保険料支出		0	457,833	501,283	959,116
会議会合費支出		0	76,864	97,916	174,780
行事費支出		0	11,672	14,208	25,880
負担金支出		0	1,481,970	940,850	2,422,820
リース料支出		0	248,646	146,912	395,558
支払報酬手数料支出		0	21,151,728	18,429,382	39,581,110
福利費支出		0	90,659	326,603	417,262
学外実習費支出		0	1,018,726	3,052,056	4,070,782
賃借料支出		0	1,082,400	1,317,600	2,400,000
雑費支出		0	13,000	0	13,000

管理經費支出	2,374,524	30,836,790	39,639,063	72,850,377
消耗品費支出	588	859,227	983,890	1,843,705
光熱水費支出	7,092	591,807	720,403	1,319,302
旅費交通費支出	353,453	563,419	734,795	1,651,667
車輛燃料費支出	0	87,093	106,017	193,110
通信費支出	1,080	1,359,492	1,652,829	3,013,401
印刷製本費支出	0	3,965,445	4,926,425	8,891,870
修繕費支出	447,120	47,616	57,963	552,699
損害保険料支出	0	147,716	179,814	327,530
会議会合費支出	0	57,486	69,977	127,463
公租公課支出	637,520	139,237	169,493	946,250
負担金支出	3,000	1,256,612	1,552,068	2,811,680
支払報酬手数料支出	562,671	7,712,559	11,374,511	19,649,741
渉外費支出	362,000	628,648	1,021,507	2,012,155
福利費支出	0	406,096	496,954	903,050
広告費支出	0	8,947,135	9,415,198	18,362,333
賃借料支出	0	740,362	901,238	1,641,600
補助活動事業支出	0	3,042,110	3,624,208	6,666,318
私立大学等經常費補助金返還金支出	0	10,000	11,000	21,000
雜費支出	0	274,730	1,640,773	1,915,503
借入金等利息支出	0	0	45,210	45,210
借入金利息支出	0	0	45,210	45,210
借入金等返済支出	0	0	4,110,000	4,110,000
借入金返済支出	0	0	4,110,000	4,110,000
設備関係支出	0	6,755,956	1,379,790	8,135,746
教育研究用機器備品支出	0	5,778,249	102,720	5,880,969
管理用機器備品支出	0	260,374	298,202	558,576
図書支出	0	717,333	978,868	1,696,201
計	8,875,701	216,918,138	258,860,320	484,654,159

人件費支出内訳表

平成30年4月 1日から
平成31年3月31日まで

(単位 円)

科 目	部 門	学 校 法 人	岡 山 学 院 大 学	岡 山 短 期 大 学	総 額
			人 間 生 活 学 部	幼 児 教 育 学 科	
教員人件費支出		0	81,933,230	104,689,303	186,622,533
本務教員		0	79,127,433	94,412,813	173,540,246
本俸		0	54,455,400	65,217,500	119,672,900
期末手当		0	7,064,225	10,309,102	17,373,327
その他の手当		0	5,246,516	3,852,045	9,098,561
所定福利費		0	7,486,607	8,195,446	15,682,053
私立大学退職金財団負担金		0	4,874,685	6,838,720	11,713,405
兼務教員		0	2,805,797	10,276,490	13,082,287
職員人件費支出		4,981,177	35,944,276	38,229,250	79,154,703
本務職員		4,981,177	35,944,276	37,554,130	78,479,583
本俸		2,927,400	21,822,000	22,054,757	46,804,157
期末手当		534,251	3,767,699	4,244,202	8,546,152
その他の手当		520,428	3,381,337	3,869,332	7,771,097
所定福利費		565,658	3,799,195	3,901,764	8,266,617
私立大学退職金財団負担金		433,440	3,174,045	3,484,075	7,091,560
兼務職員		0	0	675,120	675,120
役員報酬支出		1,520,000	0	0	1,520,000
退職金支出		0	0	7,718,509	7,718,509
教員		0	0	7,718,509	7,718,509
職員		0	0	0	0
計		6,501,177	117,877,506	150,637,062	275,015,745

活動区分資金収支計算書

平成30年4月 1日から
平成31年3月31日まで

(単位 円)

		科 目	金 額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	229,460,256
		手数料収入	3,242,400
		特別寄付金収入	13,664,229
		一般寄付金収入	1,340,000
		経常費等補助金収入	64,124,844
		付随事業収入	450,600
		雑収入	9,467,817
		教育活動資金収入計	321,750,146
	支出	人件費支出	275,015,745
		教育研究経費支出	124,497,081
		管理経費支出	72,850,377
		教育活動資金支出計	472,363,203
	差引		△ 150,613,057
調整勘定等		△ 17,005,174	
教育活動資金収支差額		△ 167,618,231	
施設による整備等活動支	科 目		金 額
	収入	施設整備等活動資金収入計	0
		設備関係支出	8,135,746
	支出	施設整備等活動資金支出計	8,135,746
		差引	
	調整勘定等		2,667,765
	施設整備等活動資金収支差額		△ 5,467,981
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		△ 173,086,212	
その他の活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	退職給与引当特定資産取崩収入	9,816,065
		減債引当特定資産取崩収入	4,110,000
		補助活動事業元入金回収収入	1,000,000
		小計	14,926,065
		受取利息・配当金収入	728,744
		その他の活動資金収入計	15,654,809
	支出	借入金等返済支出	4,110,000
		補助活動事業元入金支払支出	1,000,000
		預り金支出	501,294
		仮払金支出	300,000
		小計	5,911,294
		借入金等利息支出	45,210
		その他の活動資金支出計	5,956,504
差引		9,698,305	
調整勘定等		544,688	
その他の活動資金収支差額		10,242,993	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		△ 162,843,219	
前年度繰越支払資金		452,241,379	
翌年度繰越支払資金		289,398,160	

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。

(単位 円)

項目	資金収支 計算書計上額	教育活動 による資金収支	施設整備等活動 による資金収支	その他の活動 による資金収支
前受金収入	48,196,000	48,196,000	0	0
前期末未収入金収入	2,252,044	2,252,044	0	0
期末未収入金	△ 4,632,532	△ 4,632,532	0	0
前期末前受金	△ 52,521,000	△ 52,521,000	0	0
収入計	△ 6,705,488	△ 6,705,488	0	0
前期末未払金支払支出	20,581,237	19,508,819	202,482	869,936
前払金支払支出	90,880	90,880	0	0
期末未払金	△ 13,494,004	△ 9,209,133	△ 2,870,247	△ 1,414,624
前期末前払金	△ 90,880	△ 90,880	0	0
支出計	7,087,233	10,299,686	△ 2,667,765	△ 544,688
収入計 — 支出計	△ 13,792,721	△ 17,005,174	2,667,765	544,688

活動区分資金収支計算書とは、資金収支計算書の決算額を3つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにするものです。

平成30年度決算において、教育活動による資金収支では、収入計が3億2175万146円、支出計が4億7236万3203円となり調整勘定の△1700万5174円を含めた収支差額は△1億6761万8231円となっています。

施設整備等活動による資金収支では、収入は無し、支出計が813万5746円となり調整勘定の266万7765円を含めた収支差額は△546万7981円となっています。

その他の活動による資金収支では、収入計が1565万4809円、支出計が595万6504円となり調整勘定の54万4688円を含めた収支差額は1024万2993円となっています。

すべての活動区分をあわせた支払資金の増減額は△1億6284万3219円で、前年度繰越支払資金とあわせると翌年度繰越支払資金は2億8939万8160円となります。

事業活動収支計算書

平成30年4月 1日から
平成31年3月31日まで

(単位 円)

		科 目	子 算	決 算	差 異
事業活動収入の部		学生生徒等納付金	229,460,500	229,460,256	244
		授業料	103,320,000	103,320,000	0
		入学金	23,500,000	23,500,000	0
		教育充実費	67,068,000	67,068,000	0
		施設設備費	30,446,500	30,446,500	0
		学外実習手数料	5,126,000	5,125,756	244
		手数料	3,199,000	3,242,400	△ 43,400
		入学検定料	2,425,000	2,500,000	△ 75,000
		試験料	474,000	474,000	0
		証明手数料	300,000	268,400	31,600
		寄付金	15,390,000	15,004,229	385,771
		特別寄付金	13,670,000	13,664,229	5,771
		一般寄付金	1,720,000	1,340,000	380,000
		経常費等補助金	64,827,000	64,124,844	702,156
		国庫補助金	64,643,000	63,941,000	702,000
		地方公共団体補助金	184,000	183,844	156
		付随事業収入	452,000	450,600	1,400
		受託事業収入	402,000	402,000	0
		公開講座収入	50,000	48,600	1,400
		雑収入	18,772,756	19,283,882	△ 511,126
		施設設備利用料	853,400	853,240	160
		私立大学退職金財団交付金	7,210,900	7,210,900	0
		退職給与引当金戻入額	9,308,456	9,816,065	△ 507,609
		その他の雑収入	1,400,000	1,403,677	△ 3,677
		教育活動収入計	332,101,256	331,566,211	535,045
	教育活動収支		科 目	子 算	決 算
事業活動支出の部		人件費	275,394,703	275,015,745	378,958
		教員人件費	187,000,000	186,622,533	377,467
		職員人件費	79,154,703	79,154,703	0
		役員報酬	1,520,000	1,520,000	0
		退職金	7,720,000	7,718,509	1,491
		教育研究経費	211,089,402	208,297,175	2,792,227
		消耗品費	4,700,000	4,425,315	274,685
		光熱水費	16,134,525	16,134,525	0
		旅費交通費	4,400,000	4,376,620	23,380
		奨学費	12,725,000	12,725,000	0
		通信費	2,400,000	2,319,300	80,700
		印刷製本費	3,721,877	3,721,877	0
		修繕費	31,000,000	30,334,136	665,864
		損害保険料	960,000	959,116	884
		会議会合費	180,000	174,780	5,220
		行事費	30,000	25,880	4,120
		負担金	2,500,000	2,422,820	77,180
		リース料	400,000	395,558	4,442
		支払報酬手数料	40,000,000	39,581,110	418,890
		福利費	425,000	417,262	7,738
	学外実習費	4,100,000	4,070,782	29,218	
賃借料	2,400,000	2,400,000	0		
雑費	13,000	13,000	0		
減価償却額	85,000,000	83,800,094	1,199,906		

	管理経費	86,052,858	84,888,979	1,163,879		
	消耗品費	1,900,000	1,843,705	56,295		
	光熱水費	1,400,000	1,319,302	80,698		
	旅費交通費	1,651,667	1,651,667	0		
	車輛燃料費	200,000	193,110	6,890		
	通信費	3,013,401	3,013,401	0		
	印刷製本費	8,891,870	8,891,870	0		
	修繕費	600,000	552,699	47,301		
	損害保険料	340,000	327,530	12,470		
	会議会合費	130,000	127,463	2,537		
	公租公課	1,000,000	946,250	53,750		
	負担金	2,900,000	2,811,680	88,320		
	支払報酬手数料	20,000,000	19,649,741	350,259		
	渉外費	2,100,000	2,012,155	87,845		
	福利費	1,000,000	903,050	96,950		
	広告費	18,500,000	18,362,333	137,667		
	賃借料	1,700,000	1,641,600	58,400		
	補助活動事業	6,680,692	6,680,692	0		
	私立大学等経常費補助金返還金	21,000	21,000	0		
	雑費	2,000,000	1,915,503	84,497		
	減価償却額	12,024,228	12,024,228	0		
	徴収不能額等	0	0	0		
	教育活動支出計	572,536,963	568,201,899	4,335,064		
	教育活動収支差額	△ 240,435,707	△ 236,635,688	△ 3,800,019		
教育活動外収支	事業収入の活動部	科目	予 算	決 算	差 異	
		受取利息・配当金	728,800	728,744	56	
		その他の受取利息・配当金	728,800	728,744	56	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	728,800	728,744	56	
	事業支出の活動部	科目	予 算	決 算	差 異	
			借入金等利息	45,210	45,210	0
			借入金利息	45,210	45,210	0
			その他の教育活動外支出	0	0	0
			教育活動外支出計	45,210	45,210	0
	教育活動外収支差額	683,590	683,534	56		
	経常収支差額	△ 239,752,117	△ 235,952,154	△ 3,799,963		
特別収支	事業収入の活動部	科目	予 算	決 算	差 異	
		資産売却差額	0	0	0	
		その他の特別収入	300,000	260,693	39,307	
		現物寄付	300,000	260,693	39,307	
		特別収入計	300,000	260,693	39,307	
	事業支出の活動部	科目	予 算	決 算	差 異	
			資産処分差額	100,001	89,974	10,027
			施設処分差額	1	1	0
			設備処分差額	100,000	89,973	10,027
			その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	100,001	89,974	10,027		
	特別収支差額	199,999	170,719	29,280		
	〔予備費〕	(712,964)		19,287,036		
		19,287,036				
	基本金組入前当年度収支差額	△ 258,839,154	△ 235,781,435	△ 23,057,719		
	基本金組入額合計	△ 6,612,482	△ 6,210,375	△ 402,107		
	当年度収支差額	△ 265,451,636	△ 241,991,810	△ 23,459,826		
	前年度繰越収支差額	△ 2,688,090,401	△ 2,688,090,401	0		
	翌年度繰越収支差額	△ 2,953,542,037	△ 2,930,082,211	△ 23,459,826		
	(参考)					
	事業活動収入計	333,130,056	332,555,648	574,408		
	事業活動支出計	591,969,210	568,337,083	23,632,127		

注1 予備費の使用額

人件費の職員人件費	154,703
〃 の役員報酬	40,000
教育研究経費の光熱水費	34,525
〃 の印刷製本費	121,877
管理経費の旅費交通費	51,667
〃 の通信費	13,401
〃 の印刷製本費	191,870
〃 の補助活動事業	80,692
〃 の減価償却費	24,228
資産処分差額の施設処分差額	1
合 計	712,964 円

事業活動収支計算書とは、当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにするものです。

平成30年度決算において、教育活動収入計が3億3156万6211円、教育活動支出計が5億6820万1899円で教育活動収支差額は△2億3663万5688円となっています。

教育活動外収入計は72万8744円、教育活動外支出計は4万5210円で教育活動外収支差額は68万3534円です。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額をあわせた経常収支差額は、△2億3595万2154円となっています。また、特別収支差額は17万719円です。

すべての活動区分をあわせた事業活動収入計は3億3255万5648円、事業活動支出計は5億6833万7083円で、2億3578万1435円の支出超過となっています。

事業活動収支内訳表

平成30年4月 1日から
平成31年3月31日まで

(単位 円)

科目		部門	学校法人	岡山学院大学	岡山短期大学	総額
事業活動収入の部	学生生徒等納付金		0	108,201,495	121,258,761	229,460,256
	授業料		0	51,450,000	51,870,000	103,320,000
	入学金		0	8,250,000	15,250,000	23,500,000
	教育充実費		0	31,500,000	35,568,000	67,068,000
	施設設備費		0	15,750,000	14,696,500	30,446,500
	学外実習手数料		0	1,251,495	3,874,261	5,125,756
	手数料		0	1,584,500	1,657,900	3,242,400
	入学検定料		0	1,275,000	1,225,000	2,500,000
	試験料		0	238,000	236,000	474,000
	証明手数料		0	71,500	196,900	268,400
	寄付金		0	7,071,567	7,932,662	15,004,229
	特別寄付金		0	6,711,567	6,952,662	13,664,229
	一般寄付金		0	360,000	980,000	1,340,000
	経常費等補助金		0	26,157,724	37,967,120	64,124,844
	国庫補助金		0	26,148,000	37,793,000	63,941,000
	地方公共団体補助金		0	9,724	174,120	183,844
	付随事業収入		0	16,800	433,800	450,600
	受託事業収入		0	0	402,000	402,000
	公開講座収入		0	16,800	31,800	48,600
	雑収入		74,019	5,633,032	13,576,831	19,283,882
	施設設備利用料		12,000	432,701	408,539	853,240
	私立大学退職金財団交付金		0	0	7,210,900	7,210,900
	退職給与引当金戻入額		0	4,427,045	5,389,020	9,816,065
その他の雑収入		62,019	773,286	568,372	1,403,677	
教育活動収入計		74,019	148,665,118	182,827,074	331,566,211	
事業活動支出の部	人件費		6,501,177	117,877,506	150,637,062	275,015,745
	教員人件費		0	81,933,230	104,689,303	186,622,533
	職員人件費		4,981,177	35,944,276	38,229,250	79,154,703
	役員報酬		1,520,000	0	0	1,520,000
	退職金		0	0	7,718,509	7,718,509
	教育研究経費		0	99,241,728	109,055,447	208,297,175
	消耗品費		0	2,438,691	1,986,624	4,425,315
	光熱水費		0	7,941,602	8,192,923	16,134,525
	旅費交通費		0	831,400	3,545,220	4,376,620
	奨学金		0	4,720,000	8,005,000	12,725,000
	通信費		0	958,908	1,960,392	2,919,300
	印刷製本費		0	1,699,185	2,022,692	3,721,877
	修繕費		0	17,224,602	13,109,534	30,334,136
	損害保険料		0	457,833	501,283	959,116
	会議会合費		0	76,864	97,916	174,780
	行事費		0	11,672	14,208	25,880
	負担金		0	1,481,970	940,850	2,422,820
	リース料		0	248,646	146,912	395,558
	支払報酬手数料		0	21,151,728	18,429,382	39,581,110
	福利費		0	90,659	326,603	417,262
	学外実習費		0	1,018,726	3,052,056	4,070,782
	賃借料		0	1,082,400	1,317,600	2,400,000
	雑費		0	13,000	0	13,000
	減価償却額		0	37,793,842	46,006,252	83,800,094
	管理経費		2,374,524	36,266,200	46,248,255	84,888,979
	消耗品費		588	859,227	983,890	1,843,705
	光熱水費		7,092	591,807	720,403	1,319,302
	旅費交通費		353,453	563,419	734,795	1,651,667
	車両燃料費		0	87,093	106,017	193,110
	通信費		1,080	1,359,492	1,652,829	3,013,401
	印刷製本費		0	3,965,445	4,926,425	8,891,870
	修繕費		447,120	47,616	57,963	552,699
	損害保険料		0	147,716	179,814	327,530
	会議会合費		0	57,486	69,977	127,463
	公租公課		637,520	139,237	169,493	946,250
	負担金		3,000	1,256,612	1,552,068	2,811,680
	支払報酬手数料		562,671	7,712,559	11,374,511	19,649,741
	渉外費		362,000	628,648	1,021,507	2,012,155
	福利費		0	406,096	496,954	903,050
	広告費		0	8,947,135	9,415,198	18,362,333
賃借料		0	740,362	901,238	1,641,600	
補助活動事業		0	3,048,593	3,632,099	6,680,692	
私立大学等経常費補助金返還金		0	10,000	11,000	21,000	
雑費		0	274,730	1,640,773	1,915,503	
減価償却額		0	5,422,927	6,601,301	12,024,228	
教育活動支出計		8,875,701	253,385,434	305,940,764	568,201,899	
教育活動収支差額			△ 8,801,682	△ 104,720,316	△ 123,113,690	△ 236,635,688

教育活動外収支	事業収入の勘部	受取利息・配当金	728,536	0	208	728,744
		その他の受取利息・配当金	728,536	0	208	728,744
		教育活動外収入計	728,536	0	208	728,744
	事業支出の勘部	借入金等利息	0	0	45,210	45,210
		借入金利息	0	0	45,210	45,210
		教育活動外支出計	0	0	45,210	45,210
	教育活動外収支差額	728,536	0	△ 45,002	683,534	
	経常収支差額	△ 8,073,116	△ 104,720,316	△ 123,158,692	△ 235,952,154	
特別収支	事業収入の勘部	その他の特別収入	0	63,507	197,186	260,693
		現物寄付	0	63,507	197,186	260,693
		特別収入計	0	63,507	197,186	260,693
	事業支出の勘部	資産処分差額	0	40,578	49,396	89,974
		施設処分差額	0	0	1	1
		設備処分差額	0	40,578	49,395	89,973
		特別支出計	0	40,578	49,396	89,974
	特別収支差額	0	22,929	147,790	170,719	
	基本金組入前当年度収支差額	△ 8,073,116	△ 104,697,387	△ 123,010,902	△ 235,781,435	
	基本金組入額合計	△ 0	△ 2,800,879	△ 3,409,496	△ 6,210,375	
	当年度収支差額	△ 8,073,116	△ 107,498,266	△ 126,420,398	△ 241,991,810	
(参考)						
	事業活動収入計	802,555	148,728,625	183,024,468	332,555,648	
	事業活動支出計	8,875,701	253,426,012	306,035,370	568,337,083	

貸借対照表

平成31年3月31日

(単位 円)

資産の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
固定資産		4,388,975,487	4,490,419,409	△ 101,443,922
有形固定資産		3,384,294,471	3,471,578,279	△ 87,283,808
土	地	365,559,518	365,559,518	0
建	物	2,463,689,865	2,547,494,451	△ 83,804,586
構	築物	9,050,102	11,140,920	△ 2,090,818
教	育研究用機器備品	81,040,999	83,284,577	△ 2,243,578
管	理用機器備品	26,356,994	27,048,730	△ 691,736
図	書	438,127,189	436,290,754	1,836,435
車	輛	469,804	759,329	△ 289,525
特定資産		1,000,111,364	1,014,037,429	△ 13,926,065
退	職給与引当特定資産	155,142,478	164,958,543	△ 9,816,065
減	価償却引当特定資産	844,968,886	844,968,886	0
減	債引当特定資産	0	4,110,000	△ 4,110,000
その他の固定資産		4,569,652	4,803,701	△ 234,049
借	地権	600,000	600,000	0
電	話加入権	2,924,514	2,924,514	0
施	設利用権	1,036,028	1,270,077	△ 234,049
預	託金	9,110	9,110	0
流動資産		297,788,778	457,965,883	△ 160,177,105
現	金預金	289,398,160	452,241,379	△ 162,843,219
未	収入金	5,637,934	3,257,446	2,380,488
販	売用品	1,561,804	1,576,178	△ 14,374
前	払金	90,880	90,880	0
仮	払金	1,100,000	800,000	300,000
資産の部合計		4,686,764,265	4,948,385,292	△ 261,621,027
負債の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
固定負債		157,488,778	164,958,543	△ 7,469,765
長	期未払金	2,346,300	0	2,346,300
退	職給与引当金	155,142,478	164,958,543	△ 9,816,065
流動負債		75,918,836	94,288,663	△ 18,369,827
短	期借入金	0	4,110,000	△ 4,110,000
未	払金	13,697,156	23,130,689	△ 9,433,533
前	受金	48,196,000	52,521,000	△ 4,325,000
預	り金	14,025,680	14,526,974	△ 501,294
負債の部合計		233,407,614	259,247,206	△ 25,839,592
純資産の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
基本金		7,383,438,862	7,377,228,487	6,210,375
第1号	基本金	7,347,438,862	7,341,228,487	6,210,375
第4号	基本金	36,000,000	36,000,000	0
繰越収支差額		△ 2,930,082,211	△ 2,688,090,401	△ 241,991,810
翌年度	繰越収支差額	△ 2,930,082,211	△ 2,688,090,401	△ 241,991,810
純資産の部合計		4,453,356,651	4,689,138,086	△ 235,781,435
負債及び純資産の部合計		4,686,764,265	4,948,385,292	△ 261,621,027

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

① 徴収不能引当金

未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

② 退職給与引当金

退職金の支給に備えるため、期末要支給額を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入れ調整額を加減した金額の100%を計上している。

(2) その他の重要な会計方針

① 有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

② たな卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法に基づく原価法である。

③ 預り金その他経過項目に係る収支の表示方法

預り金に係る収入と支出は相殺して表示している。

④ 食堂その他教育活動に付随する活動に係る収支の表示方法

補助活動に係る収支は純額で表示している。

2. 重要な会計方針の変更等

なし

3. 減価償却額の累計額の合計額

3,961,454,096 円

4. 徴収不能引当金の合計額

0 円

5. 担保に供されている資産の種類及び額

なし

6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額

2,870,247 円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 純額で表示した補助活動に係る収支

純額で表示した補助活動に係る収支の相殺した科目及び金額は次のとおりである。

(単位 円)

支 出	金 額	収 入	金 額
管理経費支出	26,102,883	補助活動収入	19,436,565
計	26,102,883	計	19,436,565
純 額	6,666,318		

貸借対照表とは、決算日（3月31日）現在における学校法人の資産および負債・純資産（基本金・繰越収支差額）の内容や構成バランスを表しています。

資産の部の有形固定資産は、土地、建物、構築物、備品等の合計33億8429万4471円が計上されています。特定資産は、退職給与引当特定資産と減価償却引当特定資産の合計10億11万1364円が計上されています。その他の固定資産は、借地権等の456万9652円が計上されています。流動資産には、現金預金等2億9778万8778円が計上されており、資産総額は46億8676万4265円となっております。

負債の部の固定負債は、退職給与引当金等の合計1億5748万8778円が計上されています。流動負債は、授業料等の前受金等の合計7591万8836円が計上されており、負債総額は2億3340万7614円となっております。

純資産の部の基本金は、第1号基本金（自己資金で取得した基本金設定の対象となる資産）73億4743万8862円と、第4号基本金（恒常的に保持すべき資金の額）3600万円の合計73億8343万8862円が計上されています。繰越収支差額は、事業活動支出超過額の累計額29億3008万2211円が計上されています。

固定資産明細表

平成30年4月1日から
平成31年3月31日まで

(単位 円)

科目	目	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却額の累計額	差引期末残高	摘要
有形固定資産	土地	365,559,518	0	0	365,559,518		365,559,518	
	建物	4,918,851,476	0	370,000	4,918,481,476	2,454,791,611	2,463,689,865	
	構築物	333,177,604	0	0	333,177,604	324,127,502	9,050,102	
	教育研究用機器備品	1,164,817,683	6,000,849	3,034,280	1,167,784,252	1,086,743,253	81,040,999	注1
	管理用機器備品	105,273,339	558,576	223,440	105,608,475	79,251,481	26,356,994	
	図書	436,290,754	1,837,014	579	438,127,189	0	438,127,189	注2
	車	14,535,340	0	0	14,535,340	14,065,536	469,804	
	計	7,338,505,714	8,396,439	3,628,299	7,343,273,854	3,958,979,383	3,384,294,471	
	退職給与引当特定資産	164,958,543	0	9,816,065	155,142,478	0	155,142,478	
	減価償却引当特定資産	844,968,886	0	0	844,968,886	0	844,968,886	
特定資産	減債引当特定資産	4,110,000	0	4,110,000	0	0	0	
	計	1,014,037,429	0	13,926,065	1,000,111,364	0	1,000,111,364	
その他の資産	借地権	600,000	0	0	600,000	0	600,000	
	電話加入権	2,924,514	0	0	2,924,514	0	2,924,514	
	施設利用権	3,510,741	0	0	3,510,741	2,474,713	1,036,028	
	預託金	9,110	0	0	9,110	0	9,110	
	計	7,044,365	0	0	7,044,365	2,474,713	4,569,652	
合計	8,359,587,508	8,396,439	17,554,364	8,350,429,583	3,961,454,096	4,388,975,487		

注1 当期増加 購入教育研究用機器備品 5,880,969 円
寄贈教育研究用機器備品 119,880 円

注2 当期増加 購入図書 1,696,201 円
寄贈図書 140,813 円

借入金明細表

平成30年4月 1日から
平成31年3月31日まで

(単位 円)

借入先	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	利率	返済期限	摘要
長期借入金	公的金融機関				0		
	市中金融機関	小計	0	0	0		
	金融機関	小計	0	0	0		
	その他	小計	0	0	0		
		計	0	0	0		
短期借入金	公的金融機関						
	市中金融機関	小計	0	0	0		
	金融機関	小計	0	0	0		
	その他	小計	0	0	0		
		返済期限が1年以内の長期借入金	4,110,000	0	0	平成30年9月20日	注1
		計	4,110,000	0	0		
		合計	4,110,000	0	0		

注1 使途 エアコン設置工事
担保物権の種類 倉敷市有城字雲山380番の土地外187筆
浅口市鴨方町大字六条院中字白土1991番の土地外2筆 計191筆

基本金明細表

平成30年4月 1日から
平成31年3月31日まで

(単位 円)

事 項	要 組 入 高	組 入 高	未 組 入 高	摘 要
第1号基本金				
前期繰越高	7,345,540,969	7,341,228,487	4,312,482	
当期組入高				
1. 建物				
除却した建物に係る基本金額	△ 370,000	△ 370,000	0	
過年度未組入れに係る当期組入れ				
校舎に係る借入金返済に伴う組入れ		4,110,000	△ 4,110,000	
小 計	△ 370,000	3,740,000	△ 4,110,000	
2. 教育研究用機器備品				
機器備品の購入に係る組入れ	5,880,969	108,349	2,858,220	
機器備品の現物寄付に係る組入れ	119,880			
除却した機器備品に係る基本金額	△ 3,034,280			
過年度未組入れに係る当期組入れ				
機器備品に係る未払金支払に伴う組入れ		149,040	△ 149,040	
小 計	2,966,569	257,389	2,709,180	
3. 管理用機器備品				
機器備品の購入に係る組入れ	558,576	335,136	0	
除却した機器備品に係る基本金額	△ 223,440			
小 計	335,136	335,136	0	
4. 図書				
図書の購入に係る組入れ	1,696,201	1,824,408	12,027	
図書の現物寄付に係る組入れ	140,813			
除却した図書に係る基本金額	△ 579			
過年度未組入れに係る当期組入れ				
図書に係る未払金支払に伴う組入れ		53,442	△ 53,442	
小 計	1,836,435	1,877,850	△ 41,415	
計	4,768,140	6,210,375	△ 1,442,235	
当期末残高	7,350,309,109	7,347,438,862	2,870,247	
第4号基本金				
前期繰越高	36,000,000	36,000,000	0	
当期末残高	36,000,000	36,000,000	0	
合計				
前期繰越高	—	7,377,228,487	4,312,482	
当期組入高	—	6,210,375		
当期末残高	—	7,383,438,862	2,870,247	

平成 30 年度事業報告書

1 法人の概要

・法人の沿革

- 昭和 25 年 12 月 学校法人原田学園設置認可(岡山県山陽中学校・岡山県山陽高等学校)
- 昭和 26 年 2 月 岡山県浅口郡鴨方町に岡山女子短期大学(家政科 入学定員 80 名)を開設
- 昭和 28 年 4 月 岡山県山陽中学校休校
- 昭和 31 年 4 月 岡山女子短期大学附設幼稚園教員養成所(入学定員 20 名)を附設
- 昭和 33 年 4 月 保育科(定員 40 名)を増設
- 昭和 34 年 3 月 附設幼稚園教員養成所を廃止
- 昭和 38 年 4 月 栄養科(定員 40 名)を増設
- 昭和 39 年 4 月 保育科定員増(定員 50 名)、栄養科定員増(定員 60 名)
- 昭和 40 年 4 月 栄養科定員増(定員 80 名)
- 昭和 43 年 4 月 保育科定員増(定員 100 名)、栄養科を食物栄養科とし、定員増(定員 100 名)
- 昭和 45 年 4 月 家政科を家政学科、食物栄養科を食物栄養学科、保育科を幼児教育学科と改める
- 昭和 45 年 11 月 倉敷市有城に校地を取得
- 昭和 47 年 10 月 家政学科、食物栄養学科を倉敷に移転
- 昭和 49 年 4 月 学校法人原田学園経営の岡山県山陽高等学校を寄附行為変更により、新設の学校法人第一原田学園に移管
- 昭和 51 年 4 月 幼児教育学科定員増(定員 150 名)
- 昭和 53 年 4 月 幼児教育学科を倉敷に移転
- 昭和 59 年 12 月 カタダ BC 州立マラスピナカレッジ(現カタダ BC 州立バンクーバー・アイランド・ユニバーシティ)と姉妹校提携する
- 昭和 60 年 12 月 英語科(定員 100 名)設置認可
- 昭和 61 年 4 月 岡山県山陽中学校廃止、家政学科定員減(定員 50 名)
- 昭和 61 年 4 月 英語科(定員 100)を増設
- 平成元年 4 月 家政学科の名称を生活情報学科に変更
- 平成 3 年 4 月 食物栄養学科期間付定員増(定員 150 名)、英語科期間付定員増(定員 150 名)
- 平成 9 年 4 月 専攻科食物栄養学専攻が学位授与機構の認定を受ける
- 平成 10 年 4 月 専攻科食物栄養学専攻が 3 年制栄養士養成施設の指定を受ける
- 平成 11 年 6 月 平成 12 年 4 月 1 日より「岡山短期大学」に名称変更認可
- 平成 12 年 4 月 校名を「岡山短期大学」に変更し男女共学とする
食物栄養学科及び英語科の期間付入学定員を期間終了により解消
- 平成 13 年 12 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科(定員 100)
及び生活情報コミュニケーション学科(定員 100)設置認可
- 平成 14 年 1 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科(定員 100)が管理栄養士養成施設の指定認可を受ける
- 平成 14 年 4 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科(定員 100)
及び生活情報コミュニケーション学科(定員 100)新設
- 平成 14 年 4 月 岡山短期大学生活情報学科(定員 50)、
食物栄養学科(定員 100)及び英語科(定員 100)の学生募集を停止する
- 平成 15 年 3 月 岡山短期大学生活情報学科(定員 50)、英語科(定員 100)を廃止する
- 平成 16 年 3 月 岡山短期大学食物栄養学科(定員 100)を廃止する
- 平成 16 年 4 月 岡山学院大学人間生活学部生活情報コミュニケーション学科の名称を人間情報学科に変更
- 平成 19 年 4 月 岡山学院大学人間生活学部人間情報学科(定員 100)の学生募集を停止する
- 平成 19 年 4 月 岡山学院大学キャリア実践学部キャリア実践学科(定員 40)開設
- 平成 22 年 3 月 岡山学院大学人間生活学部人間情報学科(定員 100)を廃止する
- 平成 22 年 4 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科入学定員を 100 名から 40 名に変更
- 平成 22 年 4 月 岡山短期大学幼児教育学科入学定員を 150 名から 100 名に変更
- 平成 22 年 4 月 岡山学院大学キャリア実践学部キャリア実践学科(定員 40)の学生募集を停止する
- 平成 25 年 3 月 岡山学院大学キャリア実践学部キャリア実践学科を廃止する
- 平成 30 年 3 月 岡山学院大学が公益財団法人日本高等教育評価機構の平成 29 年度大学機関別認証評価による第 2 評価期間
の認定を受ける
- 平成 31 年 1 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科の教職課程(栄養教諭一種免許状)が再課程認定を受ける
岡山短期大学幼児教育学科の教職課程(幼稚園教諭二種免許状)が再課程認定を受ける

- ・設置する学校・学部・学科等
岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科
岡山短期大学 幼児教育学科

- ・学年・学期・休業日

学年

4月1日～翌年3月31日

学期

前期 4月1日～9月10日

後期 9月11日～翌年3月31日

休業日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

日曜日

春期休業 3月21日～3月31日

夏期休業 8月1日～9月10日

冬期休業 12月22日～翌年1月7日

- ・当該学校・学部・学科等の入学定員，学生数の状況
(平成30年5月1日現在)

学 校 名 (所在地)	学部・学科等 名	開 設 年度	入 学 定 員	入 学 数	収 容 員	現 員	充 足 率	備 考
岡山学院大学	人間生活学部 食物栄養学科	年度 H14	人 40	人 27	人 160	人 107	0.669	H22 定員変更 100→ 40
	岡山学院大学 計		40	27	160	107	0.669	編入学者数 2
岡山短期大学	幼児教育学科	年度 S33	人 100	人 60	人 200	人 130	0.65	H22 定員変更 150→ 100
	岡山短期大学 計		100	60	200	130	0.65	

- ・役員・教職員の概要 (平成30年5月1日現在)

理事総数 6名 (定数 5~7名) 学内 3名、学外 3名

理事の寄附行為の選任区分		実数
第10条第1項	校長で理事となる者はこの法人が経営する岡山短期大学又は岡山学院大学の学長とする。	1
第10条第2項	評議員のうちから選任される理事は評議員の互選で定めその定数は二人とする。	2
第10条第3項	前二項の規定により選任された理事以外の理事は評議員会の意見を聞いて同項の規定により選任された理事の過半数の議決をもって選任し、その定数は二人以上四人以内とする。	3

監事総数 2名 (定数 2名) 学外 2名

監事の寄附行為の選任区分		実数
第11条	監事はこの法人の理事、職員 (学長、教員その他の職員を含む。) 又は評議員以外の者であって理事会において選出した候補者のうちから評議員会の同意を得て理事長が選任する。	2

評議員総数 15 名（定数 15 名～20 名）

評議員の寄附行為の選任区分		実数	備考
第 15 条第 1 号	この法人の職員（この法人の設置する学校の教職員を含む）のうちから選任された者三人以上五人以内。	4	
第 15 条第 2 号	この法人の設置する学校を卒業した二十五才以上の者で選任された者二人。	2	
第 15 条第 3 号	理事のうちから選任された者二人。	2	
第 15 条第 4 号	学長である理事。	1	
第 15 条第 5 号	この法人の設置する学校に在籍する学生の保護者三人以上五人以内。	3	H20. 10. 29 理事会で 4 名から 3 名に減員
第 15 条第 6 号	この学校法人に関係ある学識経験者二人以上五人以内。	3	

専任教職員数（人）

	法人	岡山学院大学	岡山短期大学	合計
専任教育職員		16（0）	14（0）	30（0）
専任事務職員	1（0）	8（1）	9（△1）	18（0）

括弧内は 29 年度からの増減の数値

別に教員兼務者 2 人（0）、派遣事務職員 4 人（0）

兼担及び非常勤教員数（人）

	岡山学院大学	岡山短期大学
兼任教員	10（0）	4（1）
非常勤教員	9（0）	12（0）

括弧内は 29 年度からの増減の数値

2 事業の概要

・当該年度の事業の概要、目的・計画及び進捗状況

事業	概要、目的・計画及び進捗状況
入学式	平成30年4月1日（岡山学院大学・岡山短期大学合同）
オープンキャンパス	平成30年5月27日、6月17日、7月21日、8月18日、19日、9月9日、平成31年3月26日（岡山学院大学・岡山短期大学合同）
自己（AO）推薦選抜	平成30年8月8日、9月1日、9月21日 （岡山学院大学・岡山短期大学合同）
特別推薦選抜（指定校）	合格発表平成30年11月1日（岡山学院大学・岡山短期大学合同）
一般推薦選抜	平成30年11月1日、2日（岡山学院大学・岡山短期大学合同）
一般試験選抜Ⅰ期	平成31年2月1日、2月2日（岡山学院大学・岡山短期大学合同）
一般試験選抜Ⅱ期	平成31年2月8日（岡山学院大学・岡山短期大学合同）
一般試験選抜Ⅲ期	平成31年3月4日（岡山学院大学・岡山短期大学合同）
一般試験選抜Ⅳ期	平成31年3月25日（岡山学院大学・岡山短期大学合同）
卒業式	平成31年3月20日（岡山学院大学・岡山短期大学合同）

平成31年度学生募集実績

岡山学院大学	志願者			受験者			合格者			入学者		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
食物栄養学科 定員40人	12	36	48	10	34	44	10	34	44	8	29	37

※特別奨学生選抜結果：人間生活学部食物栄養学科 受験者15名、合格者1名

※試験選抜特別奨学生選抜：受験者4名、合格者1名

※3年次編入学者：1名

岡山短期大学	志願者			受験者			合格者			入学者		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
幼児教育学科 定員100人	3	46	49	2	46	48	2	46	48	2	42	44

※特別奨学生選抜結果：幼児教育学科 受験者12名、合格者1名

平成30年度卒業生

岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 26人

栄養士免許取得者20名 栄養教諭一種免許状取得者4名

食品衛生管理者・食品衛生監視員取得者18名

フードスペシャリスト資格取得者13名 専門フードスペシャリスト（食品開発）資格取得者0名

図書館司書資格取得者1名

就職希望者数24名 就職者数24名 進学者0名 専門職就職率 16/24=66.6%

平成31年3月卒業生の管理栄養士国家試験合格率 91.6%（受験者12名、合格者11名）

岡山短期大学幼児教育学科 60人

幼稚園教諭2種免許状取得者55名 保育士資格取得者57名 司書取得者10名 社会教育主事任用資格取得者3名

就職希望者数59人 就職者数59人 専門職就職率 56/59=94.9%

平成 30 年度公開講座の実績

前期・後期合わせて 16 講座を開講し、受講者集 90 名であった。

	講座名	講師	日程	受講者数	
前期	講座 1	豊かなアクティブシニアライフを目指して～ 高齢期をいきいきと生きるために～	高槻悦子	4月 21 日 (土)	8
	講座 2	哲学カフェ (2) — 「芸術」の哲学—～人生 を豊かにするエッセンス～	都田修兵	5月 12 日(土)	9
	講座 3	『幼稚園教育要領』を読む①	都田修兵	6月 2 日(土)	3
	講座 4	小麦粉・卵・乳製品を使わずに おいしい簡単料理を作ろう！	中原真由美	6月 30 日 (土)	3組 6名
	講座 5	哲学カフェ (3) — 「宗教」の哲学—～人生 を豊かにするエッセンス～	都田修兵	7月 7 日 (土)	特別警報 の為中止
	講座 6	『幼稚園教育要領』を読む②	都田修兵	8月 25 日 (土)	2
	講座 7	シリーズ『新修 倉敷市史』を読む④	尾崎聡	8月 25 日 (土)	6
後期	講座 8	哲学カフェ (3) — 「宗教」の哲学— ～人生を豊かにするエッセンス～	都田修兵	9月 22 日 (土)	8
	講座 9	簡単！手ごねでパン作り ～小麦粉のグルテンを見てみよう～	村上祥子	10月 6 日 (土)	11
	講座 10	『幼稚園教育要領』を読む③	都田修兵	10月 13 日 (土)	1
	講座 11	哲学カフェ (4) — 「恋愛」の哲学—～人生 を豊かにするエッセンス～	都田修兵	11月 24 日 (土)	5
	講座 12	『幼稚園教育要領』を読む④	都田修兵	12月 15 日 (土)	1
	講座 13	『新修 倉敷市史を読む』 (連続もの)	尾崎聡	1月 12 日 (土)	講師急用 の為中止
	講座 14	限りない細胞の可能性(2) - サイエンスニュー ースから -	宮崎正博	2月 9 日 (土)	8
	講座 15	哲学カフェ (5) — 「言葉」の哲学—～人生 を豊かにするエッセンス～	都田修兵	2月 9 日 (土)	13
	講座 16	哲学カフェ (6) — 「心理」の哲学— ～人生を豊かにするエッセンス～	都田 修兵	3月 16 日 (土)	9

平成 30 年度高校訪問の実績

例年通り教員による高校訪問を実施した。例年の 7 月実施と 9 月実施の他に、3 月、5 月、11 月・
12 月にも高校訪問を実施した。詳細は下記のとおり

第 1 回目 (平成 30 年 3 月)	25 校
第 2 回目 (5 月)	41 校
第 3 回目 (7 月)	150 校
第 4 回目 (9 月)	155 校
第 5 回目 (11 月、12 月)	16 校

平成 30 年度入試懇談会

6 月 5 日福山 (参加高校数 5 校)、6 月 12 日倉敷 (参加高校数 15 校) で開催した。

平成 30 年度進学ガイダンス等の実績

合計 95 会場、646 人参加

形式	会場数	参加者数
会場形式	25	236
校内ガイダンス	44	334
模擬授業形式	2	7
資料頒布	24	69

平成 30 年度 FDSD の実績

日 時： 平成 30 年 12 月 25 日（火） 9：10～15：00

場 所： 岡山学院大学・岡山短期大学 情報処理教育センター D02

評 価 員： 九州情報大学・山口短期大学 麻生隆史 理事長・学長

時 間	内 容
9：10～10：10	岡山短期大学幼児教育学科 報告 平成 30 年度は、 1. 退学者防止策 2. 社会貢献活動 3. シャトルカードの活用法 4. 授業参観 5. 個人面談 6. 公開講座た課題と改善策 (15 分の質疑応答含む) (質疑応答後 5 分休憩)
10：20～11：20	岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 報告 1. 退学者防止策の検討 2. 社会貢献活動の現状分析と産学官連携事業の今後の展開の検討 3. シャトルカードの活用法について 4. 教員相互の授業参観 5. クラスメンターの面談から本学が掲げている課題の検討 6. 公開講座実施状況の分析とリカレント教育の検討 7. 栄養長寿教室および地域訪問栄養長寿教室の取組と見直しについて (15 分の質疑応答含む) (質疑応答後 5 分休憩)
11：30～12：30	岡山学院大学・岡山短期大学事務部 報告 平成 30 年度も議長（学長）のもと、計 6 回 SD 会議を実施した。 第 1・2 回はオープンキャンパスについて行った。各学科の教員も 2 名ずつ参加し、本年度のオープンキャンパスの運営における疑問や新規取り組みの確認等を中心に行った。2 回目は、これに加え日本私立短期大学協会が作成した「短大クエスチョン」の内容の確認を行った。 第 3～6 回は、次年度に岡山短期大学で認証評価を受審することもあり、多くは短期大学の認証評価に関する内容となった。 第 3 回では、幼児教育学科の教員 5 名も参加し、短期大学評価基準等について学長から説明を受けた。 第 4 回では、平成 31 年度短期大学認証評価受審にあたって、事務職員の知識と理解を深めると共に評価基準の確認を行った。 第 5 回では、経営改善計画について学長より説明を受けた後、短期大学認証評価基準に基づいて自部署業務における自己点検について各自発表を行い、全員で分析を行った。 第 6 回では、第 5 回で発表後分析を行った各自の発表を修正し、再度各自発表・分析を行った。 本年度のワークショップでは、平成 31 年度岡山短期大学認証評価を受審するにあたって、各事務職員が短期大学認証評価基準に基づいて自部署での基準及び観点に対して、自己点検・評価と課題について報告した。(15 分の質疑応答含む)
12：30～13：30	昼休憩
13：30～14：30	講演：Twitter, Facebook の使い方と安全性

	<p>ー SNSの利用方法を間違えると危険がいっぱい ー</p> <p>講師：九州情報大学・山口短期大学 理事長・学長 麻生隆史 先生 プロジェクタを使用して実際にネットに繋ぎ Facebook、Twitter を起動させアカウント作成・検証しながらの講演であった。</p>
14：30～14：45	<p>講演に対する質疑応答</p> <p>11月にウェブサイトのリニューアルした。公式 Facebook、Twitter、Instagram の作成、管理についてアドバイスを求め、適格な説明を受けた。</p>
14：45～15：00	<p>総括（学長 原田博史）</p> <p>平成30年度のFD・SDワークショップでは、大学及び短期大学共に、次の事項を追加してもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 退学者防止策を検討する。 ○ 現在実施している地域創生を踏まえた社会貢献活動を分析し、産学官連携事業にどのように活かすことができるか検討する。 ○ 教員によってシャトルカードの活用法が異なるので、専任教員のシャトルカードの活用法を分析し活用法を再検討する。 ○ 授業参観を実施し各自の授業手法の課題の発見と改善を図る。 ○ クラスメンターによる学生面談から、教育の課題を発見する。 ○ 公開講座の実施状況を分析し、公開講座の向上・充実を図る。 <p>大学も短期大学も改善すべき点が見えてきたので、次年度へ向けて改善策を講じてほしい。</p> <p>麻生先生の講演により、本学のウェブサイトにSNSを導入することができるようになり感謝したい。</p>

経営改善計画(平成30年度～34年度(5ヵ年))の実施

別添の経営改善計画（平成30年度～34年度（5ヵ年））について、「経営改善計画の概要、経営改善計画、財務計画表、経営改善計画実施管理表、自己点検リスト、平成29年度計算書類、財産目録、事業報告書、監査報告書、設置する学校の概要（「学校案内」等のパンフレット）、監事の所見」等を平成30年7月6日付で文部科学省に提出した。

平成30年12月20日（木）、本学で日本私立学校振興・共済事業団の私学経営情報センター経営支援室の担当者から本学の経営改善の状況についてヒアリングを受けた。

平成31年2月21日付け「学校法人運営調査委員による調査結果について（通知）」において、指導・助言事項「(1) 学校法人の経営に係る中長期的な見通しや構想の下に、経営改善計画の作成及び着実な実施等により経営基盤の安定確保に努めること。」に係る改善状況を平成31年7月5日（金）までに報告するよう求められた。

平成30年度外部研究費の獲得

平成30年度学術研究助成事業助成金

研究代表者

- ・研究種目：基盤研究（C）／平成29年度～平成31年度
- ・研究課題名：「小学校生活科・保育活動に役立つバリアフリー自然体験型環境教育教材の開発」
- ・研究代表者：山口雪子
- ・交付決定額（3年総計）：【直接経費：3,300,000円、間接経費：990,000円】
- ・平成29年度：2,730,000円【直接経費：210万円、間接経費：63万円】（H29.7.5入金）
- ・平成30年度：780,000円【直接経費：60万円、間接経費：18万円】（H30.4.10入金）

研究分担者

- ・研究種目：基盤研究（C）／平成29年度～32年度
- ・研究課題名：「再発性尿路感染症に対する乳酸菌膈坐剤の有効性に関する基礎・臨床的エビデンスの構築」

・研究代表者：石井亜矢乃（岡山大学）

・研究分担者：狩山玲子

（分担金）

・平成29年度：65,000円【直接経費：5万円、間接経費：1万5千円】（H29.7.7入金）

・平成30年度：65,000円【直接経費：5万円、間接経費：1万5千円】（H30.6.25入金）

平成 30 年度奨学寄附金

「さぬきうどんのおいしさに関する研究（共同研究）」に対する研究助成

公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団

（千葉県市川市市川 1-9-2 サンプラザ 35 ビル 6 階）

- ・研究代表者：次田一代（香川大学）
- ・研究分担者：次田隆志、津村哲司
- ・寄附金額：1,000,000 円（H30.4.17 入金）

平成 30 年度外部資金の獲得

平成 30 年度岡山県補助金

おかやま子育てカレッジ地域貢献事業費補助金（岡山県備中県民局）

補助金：110,000 円（H31.3.25 入金）

保育士養成施設連携強化事業（保育所等就業支援強化）補助金（岡山県保健福祉部）

補助金：44,000 円（H30.11.30 入金）

平成 30 年度ごはんの適量を学ぶ「3・1・2 弁当箱法」体験セミナー事業経費補助（公益社団法人米穀安定供給確保支援機構）

実施日時：平成 30 年 6 月 20 日（水）12：30～14：30

実施場所：岡山学院大学 C 2 0 3 栄養教育実習室（講義）、A 1 0 8 調理実習室（実習）

助成金額：86,799 円（H30.10.30 入金）

実施責任者：村上祥子

諸規程等の整備

制定施行

- 岡山学院大学岡山短期大学「ヒトを対象とする研究」に関する研究倫理審査委員会規則
- 岡山学院大学岡山短期大学アセスメント・ポリシー

改正施行

- 岡山学院大学および岡山短期大学のクラスおよびクラスメンターに関する規程
- 岡山学院大学岡山短期大学研究活動の不正行為防止に関する取扱規程
- 学校法人原田学園就業規則
- 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科の教育方針
- 岡山短期大学幼児教育学科の教育方針
- 「幼稚園教育実習」履修に関する規則
- 「保育実習 I・II」履修に関する規則
- 「栄養教育実習」履修に関する規則
- 「臨地実習」履修に関する規則

3 財務の概要

財務状況の経年比較（4か年間）

新会計基準	平成 28 年 3 月 31 日	平成 29 年 3 月 31 日	平成 30 年 3 月 31 日	平成 31 年 3 月 31 日
資産の部	金額	金額	金額	金額
固定資産	5,092,447,127	4,584,521,606	4,490,419,409	4,388,975,487
有形固定資産	4,034,725,509	3,557,623,827	3,471,578,279	3,384,294,471
特定資産	1,052,458,929	1,021,860,029	1,014,037,429	1,000,111,364
その他の固定資産	5,262,689	5,037,750	4,803,701	4,569,652
流動資産	438,242,390	575,990,660	457,965,883	297,788,778
資産の部合計	5,530,689,517	5,160,512,266	4,948,385,292	4,686,764,265
負債の部	金額	金額	金額	金額
固定負債	193,830,043	176,891,143	164,958,543	157,488,778
流動負債	140,606,417	126,858,393	94,288,663	75,918,836
負債の部合計	334,436,460	303,749,536	259,247,206	233,407,614
純資産の部	金額	金額	金額	金額
基本金	8,107,744,686	7,350,572,143	7,377,228,487	7,383,438,862
第1号基本金	8,043,744,686	7,314,572,143	7,341,228,487	7,347,438,862
第4号基本金	64,000,000	36,000,000	36,000,000	36,000,000
繰越収支差額	△2,911,491,629	△2,493,809,413	△2,688,090,401	△2,930,082,211
翌年度繰越収支差額	△2,911,491,629	△2,493,809,413	△2,688,090,401	△2,930,082,211
純資産の部合計	5,196,253,057	4,856,762,730	4,689,138,086	4,453,356,651
負債及び純資産の部合計	5,530,689,517	5,160,512,266	4,948,385,292	4,686,764,265

貸借対照表関係比率

貸借対照表関係比率	医療法人以外大学法人 全国平均	短大法人 全国平均	評	26年度 決算	27年度 決算	28年度 決算	29年度 決算	30年度 決算
固定資産構成比率	82.5%	80.9%	～	92.5%	92.1%	88.8%	90.7%	93.6%
有形固定資産構成比率					73.0%	68.9%	70.2%	72.2%
特定資産構成比率					19.0%	19.8%	20.5%	21.3%
流動資産構成比率	17.5%	19.1%	～	7.5%	7.9%	11.2%	9.3%	6.4%
固定負債構成比率	8.6%	9.4%	▼	4.0%	3.5%	3.4%	3.3%	3.3%
流動負債構成比率	6.5%	6.5%	▼	2.6%	2.5%	2.5%	1.9%	1.6%
内部留保資産比率					20.8%	24.8%	24.4%	22.5%
運用資産余裕比率					267.3%	263.4%	269.7%	226.6%
純資産構成比率					93.9%	94.1%	94.8%	95.0%
繰越収支差額構成比率					△52.6%	△48.3%	△54.3%	△62.5%
自己資金構成比率	84.9%	84.0%	△	93.4%				
消費収支差額構成比率	0.7%	△0.3%	△	△49.9%				
固定比率	97.2%	95.3%	▼	99.0%	98.0%	94.4%	95.8%	98.6%
固定長期適合率	88.3%	85.5%	▼	94.9%	94.5%	91.1%	92.5%	95.2%
流動比率	269.7%	292.3%	△	290.5%	310.6%	453.5%	487.2%	392.1%
総負債比率	15.1%	16.0%	▼	6.6%	6.0%	5.9%	5.2%	5.0%
負債比率	17.8%	19.0%	▼	7.1%	6.4%	6.3%	5.5%	5.2%
前受金保有率	326.6%	430.1%	△	540.3%	576.0%	895.2%	852.8%	602.1%
退職給与引当特定資産 保有率					100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
退職給与引当預金率	59.9%	49.6%	△	100.0%				
基本金比率	95.8%	94.1%	△	99.4%	99.6%	99.7%	99.9%	100.0%
減価償却比率	35.5%	36.6%	～	51.2%	56.8%	57.8%	59.2%	60.5%
積立率					35.2%	40.2%	36.3%	31.3%

医療法人以外大学法人全国平均及び短大法人全国平均は平成14年度版日本私立学校振興・共済事業団の平成13年度の値で、同様に評は「▼ 低い値が良い △ 高い値がよい ～ どちらとも言えない」を示している。

平成26年度までの関係比率

固定資産構成比率	固定資産÷総資産	流動比率	流動資産÷流動負債
流動資産構成比率	流動資産÷総資産	総負債比率	総負債÷総資産
固定負債構成比率	固定負債÷総資金	負債比率	総負債÷自己資金
流動負債構成比率	流動負債÷総資金	前受金保有率	現金預金÷前受金
自己資金構成比率	自己資金÷総資金	退職給与引当預金率	退職給与引当特定預金(資産) ÷退職給与引当金
消費収支差額構成比率	消費収支差額÷総資金	基本金比率	基本金÷基本金要組入額
固定比率	固定資産÷自己資金	減価償却比率	減価償却累計額(図書を除く) ÷減価償却資産取得価額(図書を除く)
固定長期適合率	固定資産÷(自己資金+固定負債)		

平成26年度の関係比率の平成27年度からの関係比率計算式

固定資産構成比率	固定資産÷総資産	流動比率	流動資産÷流動負債
流動資産構成比率	流動資産÷総資産	総負債比率	総負債÷総資産
固定負債構成比率	固定負債÷(総負債+純資産)	負債比率	総負債÷純資産
流動負債構成比率	流動負債÷(総負債+純資産)	前受金保有率	現金預金÷前受金
自己資金構成比率	廃止	退職給与引当預金率	退職給与引当特定資産 ÷退職給与引当金
消費収支差額構成比率	廃止	基本金比率	基本金÷基本金要組入額
固定比率	固定資産÷純資産	減価償却比率	減価償却累計額(図書を除く) ÷減価償却資産取得価額(図書を除く)
固定長期適合率	固定資産÷(純資産+固定負債)		

平成 27 年度から追加された関係比率

有形固定資産構成比率	有形固定資産 ÷ 総資産	純資産構成比率	純資産 ÷ (総負債 + 純資産)
特定資産構成比率	特定資産 ÷ 総資産	繰越収支差額構成比率	繰越収支差額 ÷ (総負債 + 純資産)
内部留保資産比率	(運用資産 - 総負債) ÷ 総資産	退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当特定資産 ÷ 退職給与引当金
運用資産余裕比率	(運用資産 - 外部負債) ÷ 経常支出	積立率	運用資産 ÷ 要積立額

運用資産 → 現金預金 + 特定資産 + 有価証券

要積立額 → 減価償却累計額 + 退職給与引当金 + 2, 3号基本金

貸借対照表関係比率の説明（日本私立学校振興・共済事業団から抜粋）

固定資産構成比率	固定資産の総資産に占める構成割合で、流動資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標である。固定資産は施設設備等の有形固定資産と各種引当特定資産を内容とする特定資産を中心に構成されている。学校法人が行う教育研究事業には多額の設備投資が必要となるため、一般的にはこの比率が高くなるのが学校法人の財務的な特徴である。この比率が学校法人全体の平均に比して特に高い場合、資産の固定化が進み流動性が乏しくなっていると評価することができる。しかし固定資産に占める特定資産の比率が高い学校法人においては必ずしもこの評価は適切ではないため、資産の固定化を測る比率として、有形固定資産に焦点をあてた「有形固定資産構成比率」を利用することも有効である。なお、固定資産構成比率は、流動資産構成比率と表裏をなす関係にある。
有形固定資産構成比率	有形固定資産の総資産に占める構成割合で、土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているかを評価する指標である。学校法人では教育研究事業に多額の施設設備投資を必要とするため、この比率が高くなるのが財務的な特徴であるが、学校規模に比して設備投資が過剰となる場合は財政を逼迫させる要因ともなるため、注意が必要である。
特定資産構成比率	特定資産の総資産に占める構成割合で、各種引当特定資産などの長期にわたって特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況の評価する指標である。一般的には、この比率が高い場合は中長期的な財政支出に対する備えが充実しており、計画的な学校法人経営に資するといえる。この比率が低い場合には主に二通りの評価が考えられる。一つは固定・流動を合わせた金融資産が少ないため特定資産の形成が困難な場合であり、資金の目的化以前に財政基盤の脆弱さ、資金の流動性の問題が懸念される。もう一つは金融資産は少なからず保有しているが特定資産を形成していない場合で、この場合は直ちに財政基盤が脆弱であるとはいえない。しかし近年では中長期的な視点にたった経営計画の策定と、経営計画の支えとなる特定資産の重要性が高まっており、また保護者をはじめとした利害関係者への説明責任の観点からも計画的な特定資産形成が望ましい。
流動資産構成比率	流動資産の総資産に占める構成割合で、固定資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標となる。流動資産は現金預金と短期有価証券のほか、未収入金などで構成されている。一般的にこの比率が高い場合、現金化が可能な資産の割合が大きく、資金流動性に富んでいると評価できる。逆に著しく低い場合は、資金流動性に欠け、資金繰りが苦しい状況にあると評価できる。この比率が低い場合であっても、低金利下での有利な運用条件を求めて長期預金や長期有価証券を保有している場合や、将来的な財政基盤の安定化のために金融資産を目的化して特定資産化している場合には、必ずしも流動性に乏しいとはいえないため、特定資産や固定資産の有価証券の保有状況も確認して評価を行う必要がある。なお、流動資産構成比率は固定資産構成比率と表裏をなす関係にある。
固定負債構成比率	固定負債の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、主に長期的な債務の状況の評価するものであり、流動負債構成比率とともに負債構成のバランスと比重を評価する指標である。固定負債は主に長期借入金、学校債、退職給与引当金等で構成されており、これらは長期間にわたり償還あるいは支払い義務を負う債務である。学校の施設設備の拡充や更新の際に、長期借入金を導入した方が財政計画上有利となる場合等もあり、長期借入金が多いことが直ちにネガティブな評価とはならないが、学校法人の施設整備計画や手元資金の状況に比してこの比率が過度に高い場合には、経営上の懸念材料となる点に留意が必要である。
流動負債構成比率	流動負債の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、主に短期的な債務の比重を評価するものであり、固定負債構成比率とともに負債構成のバランスと比重を評価する指標である。学校法人の財政の安定性を確保するためには、この比率が低いほうが好ましいと評価できる。しかし流動負債のうち、前受金は主として翌年度入学生の納付金はその内容であり、短期借入金とは性格を異にするものであるため、流動負債を分析する上では前受金の状況にも留意する必要がある。
内部留保資産比率	特定資産（各種引当資産）と有価証券（固定資産および流動資産）と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合である。この比率がプラスとなる場合は運用資産で総負債をすべて充当することができ、結果的に有形固定資産が自己資金で調達されていることを意味しており、プラス幅が大きいほど運用資産の蓄積度が大きいと評価できる。一方、この比率がマイナスとなる場合、運用資産より総負債が上回っていることを意味しており、財政上の余裕度が少ないことを表すこととなる。
運用資産余裕比率	「運用資産（特定資産・有価証券・現金預金の換金可能なもの）」から「外部負債（借入金・学校債・未払金等の外部に返済を迫られるもの）」を差し引いた金額が、事業活動収支計算書

	上の経常支出の何倍にあたるかを示す比率であり、学校法人の一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているかを表す指標である。この比率が1.0を超えている場合は、すなわち一年間の学校法人の経常的な支出を賄えるだけの資金を保有していることを示し、一般的にはこの比率が高いほど運用資産の蓄積が良好であるといえる。なお、この比率の単位は（年）である。
純資産構成比率	純資産の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、学校法人の資金の調達源泉を分析する上で、最も概括的で重要な指標である。この比率が高いほど財政的には安定しており、逆に50%を下回る場合は他人資金が自己資金を上回っていることを示している。
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合である。繰越収支差額とは、過去の会計年度の事業活動収入超過額又は支出超過額の累計であり、一般的には支出超過（累積赤字）であるよりも収入超過（累積黒字）であることが理想的である。しかし、単年度の事業活動収支を分析する場合と同様に、事業活動収支差額は各年度の基本金への組入れ状況によって左右される場合もあるため、この比率のみで分析した場合、一面的な評価となる虞がある。この比率で評価を行う場合は基本金の内訳とその構成比率と併せて検討する必要がある。
固定比率	固定資産の純資産に対する割合で、土地・建物・施設等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか、すなわち資金の調達源泉とその使途とを対比させる比率である。固定資産は学校法人の教育研究事業にとって必要不可欠であり、永続的にこれを維持・更新していく必要がある。固定資産に投下した資金の回収は長期間にわたるため、本来投下資金は返済する必要のない自己資金を充てることが望ましい。しかし実際に大規模設備投資を行う際は外部資金を導入する場合もあるため、この比率が100%を超えることは少なくない。このような場合、固定長期適合率も利用して判断することが有効である。なお、固定資産に占める有形固定資産と特定資産の構成比にも留意が必要である。
固定長期適合率	固定資産の、純資産と固定負債の合計値である長期資金に対する割合で、固定比率を補充する役割を担う比率である。固定資産の取得を行う場合、長期間活用できる安定した資金として自己資金のほか短期的に返済を迫られない長期借入金でこれを賄うべきであるという原則に対してどの程度適合しているかを示している。この比率は100%以下で低いほど理想的とされる。100%を超えた場合は、固定資産の調達源泉に短期借入金等の流動負債を導入していることができ、財政の安定性に欠け、長期的にみて不安があることを示している。固定比率が100%以上の法人にあっては、この固定長期適合率を併用するとともに固定資産の内容に注意して分析することが望ましい。
流動比率	流動負債に対する流動資産の割合である。一年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現金預金又は一年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払い能力を判断する重要な指標の一つである。一般に金融機関等では、200%以上であれば優良とみなしており、100%を切っている場合には、流動負債を固定資産に投下していることが多く、資金繰りに窮していると見られる。ただし、学校法人にあっては、流動負債には外部負債とは性格を異にする前受金の比重が大きいことや、流動資産には企業のように多額の「棚卸資産」がなく、ほとんど当座に必要な現金預金であること、さらに、資金運用の点から、長期有価証券へ運用替えしている場合もあり、また、将来に備えて引当特定資産等に資金を留保している場合もあるため、必ずしもこの比率が低くなると資金繰りに窮しているとは限らないので留意されたい。
総負債比率	固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資金の比重を評価する極めて重要な比率である。この比率は一般的に低いほど望ましく、50%を超えると負債総額が純資産を上回ることを示し、さらに100%を超えると負債総額が資産総額を上回る状態、いわゆる債務超過であることを示す。
負債比率	他人資金と自己資金との割合で、他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないかを測る比率であり、100%以下で低い方が望ましい。この比率は総負債比率、純資産構成比率と相互に関連しているが、これらの比率よりも顕著に差を把握することができる。
前受金保有率	前受金と現金預金との割合で、当該年度に収受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率であり、100%を超えることが一般的とされている。この比率が100%を下回っている場合、主に2つの要因が考えられる。1つには前受金として収受した資金を現金預金以外の形で保有し、短期的な運用を行っている場合であり、この場合は有価証券の状況を確認することで前もって収受している翌年度分の納付金が保有されていることを確認することとなる。もう1つは、翌年度分の納付金として収受した前受金に前年度のうちから手を付けている場合であり、この状況は資金繰りに苦慮している状態を端的に表しているものと見ることができる。なお、入学前に前受金を収受していない学校ではこの値が高くなる場合があるため、入学前年度における授業料等の納付条件等も確認する必要がある。
退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当金と特定資産中の退職給与引当特定資産の充足関係を示す比率で、将来的な支払債務である退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているかを判断するものであり、一般的には高い方が望ましい。ただし、学校法人によって退職給与引当率に差異がある場合や、特定資産を形成せず現金預金・有価証券等の形で保有している場合もあり、この比率が低い場合は退職給与引当金の財源をどのように確保しているか、学校法人の状況を念頭に置いて評価する必要がある。

基本金比率	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合である。この比率は100%が上限であり、100%に近いほど未組入額が少ないことを示している。未組入額があることはすなわち借入金又は未払金をもって基本金組入対象資産を取得していることを意味するため、100%に近いことが望ましい。しかし、仮に100%である場合でも繰越事業活動収支差額において支出超過となっている場合、累積した支出超過が基本金を毀損していることとなるため、繰越事業活動収支差額の状況も併せて評価する必要がある。
減価償却比率	減価償却資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合である。建物・設備等の有形固定資産を中心とする減価償却資産は、耐用年数に応じて減価償却されるが、固定資産の取得価額と未償却残高との差額である償却累計額が、取得価額に対してどの程度を占めているかを測る比率である。資産の取得年次が古いほど、又は耐用年数を短期間に設定しているほどこの比率は高くなる。なお、設立から間もない学校法人では固定資産の償却が開始したばかりであるため、特に低い値となる。
積立率	学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。この比率では、長期的に必要な資金需要の典型的なものとして、施設設備の取替更新と退職金支払に焦点をあてている。その一方で運用資産の内容は、学校法人ごとに特定資産の用途の指定状況が一律ではないことから、換金可能な金融資産、すなわち現金預金・有価証券（固定資産および流動資産）・特定資産の合計額と幅広く捉えている。そのため算定式の分子・分母に用途の異なる要素が混在することとなるが、ここでは学校法人全体の財政状況の全体的な把握を主眼に置いており、個別目的に対応した資産の保有状況を測るものではない。一般的には比率は高い方が望ましいが、例えば学校法人の将来計画において部門の規模縮小や廃止等が予定されている場合にはその分の施設設備の取替更新等が不要となるため、算定式から不要分にかかる要素を除外して試算してみる等、この算定式から得られる結果のみに捉われず各学校法人の状況に応じた試算を併用することも比率の活用の上では重要である。

事業活動収支計算書関係比率

消費収支計算書 関係比率	医療法人以外 大学法人 全国平均	短大法人 全国平均	評	26年度決算	27年度決算	28年度決算	29年度決算	30年度決算
人件費比率	51.7%	63.0%	▼	66.5%	66.3%	60.6%	75.9%	82.8%
人件費依存率	69.4%	99.2%	▼	90.7%	96.3%	110.1%	107.2%	120.1%
教育研究経費比率	25.6%	21.9%	△	39.9%	40.1%	35.8%	49.6%	62.7%
管理経費比率	7.5%	9.1%	▼	18.3%	17.9%	17.8%	19.8%	25.6%
借入金等利息比率	0.7%	1.0%	▼	0.4%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%
事業活動収支差額比率					△22.0%	△64.1%	△44.8%	△70.9%
基本金組入後収支比率					122.0%	164.1%	155.7%	174.2%
消費支出比率	87.7%	96.8%	▼	125.1%				
消費収支比率	104.4%	110.2%	▼	125.1%				
学生生徒等納付金比率	74.5%	63.5%	～	73.3%	68.8%	55.1%	70.8%	69.0%
寄付金比率	2.8%	2.4%	△	3.3%	3.4%	21.6%	3.7%	4.5%
経常寄付金比率					3.2%	21.8%	3.8%	4.5%
補助金比率	12.5%	23.8%	△	16.3%	21.5%	13.2%	20.5%	19.2%
経常補助金比率					22.0%	13.4%	20.6%	19.3%
基本金組入率	16.0%	12.1%	△	0.0%	0.0%	0.0%	7.2%	1.8%
減価償却額比率	11.1%	9.7%	～	19.2%	19.5%	16.0%	17.9%	16.9%
経常収支差額比率					△24.8%	△14.5%	△45.6%	△71.1%
教育活動収支差額比率					△24.8%	△14.4%	△45.7%	△71.4%

医療法人以外大学法人全国平均及び短大法人全国平均は平成14年度版日本私立学校振興・共済事業団の平成13年度の値で、同様に評は「▼ 低い値が良い △ 高い値がよい ～ どちらとも言えない」を示している。

平成26年度までの関係比率

人件費比率	人件費÷帰属収入
人件費依存率	人件費÷学生生徒等納付金
教育研究経費比率	教育研究経費÷帰属収入
管理経費比率	管理経費÷帰属収入
借入金等利息比率	借入金等利息÷帰属収入
消費支出比率	消費支出÷帰属収入
消費収支比率	消費支出÷消費収入
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金÷帰属収入
寄付金比率	寄付金÷帰属収入
補助金比率	補助金÷帰属収入
基本金組入率	基本金組入額÷帰属収入
減価償却費比率	減価償却額÷消費支出

平成 26 年度の関係比率の平成 27 年度からの関係比率計算式

人件費比率	人件費÷経常収入
人件費依存率	人件費÷学生生徒等納付金
教育研究経費比率	教育研究経費÷経常収入
管理経費比率	管理経費÷経常収入
借入金等利息比率	借入金等利息÷経常収入
消費支出比率	廃止
消費収支比率	廃止
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金÷経常収入
寄付金比率	寄付金÷事業活動収入
補助金比率	補助金÷事業活動収入
基本金組入率	基本金組入額÷事業活動収入
減価償却額比率	減価償却額÷経常支出

平成 27 年度から追加された関係比率

事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入
基本金組入後収支比率	事業活動支出÷(事業活動収入－基本金組入額)
経常寄付金比率	教育活動収支の寄付金÷経常収入
経常補助金比率	教育活動収支の補助金÷経常収入
経常収支差額比率	経常収支差額÷経常収入
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額÷教育活動収入計

事業活動収支計算書関係比率の説明（日本私立学校振興・共済事業団から抜粋）

人件費比率	人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因ともなる。教職員 1 人当たり人件費や学生生徒等に対する教職員数等の教育研究条件等にも配慮しながら、各学校の実態に適った水準を維持する必要がある。
人件費依存率	人件費の学生生徒等納付金に占める割合を示す。この比率は人件費比率及び学生生徒等納付金比率の状況にも影響される。一般的に人件費は学生生徒等納付金で賄える範囲内に収まっている（比率が 100%を超えない）ことが理想的であるが、学校の種類や系統・規模等により、必ずしもこの範囲に収まらない構造となっている場合もある点に留意が必要である。例えば高等学校においては学費軽減の観点から相当規模の補助金が交付されており、相対的に学生生徒納付金が低い水準に抑えられている場合は、分母に補助金を加えて「修正人件費依存率」として評価することも有用である。
教育研究経費比率	教育研究経費の経常収入に占める割合である。教育研究経費には修繕費、光熱水費、消耗品費、委託費、旅費交通費、印刷製本費等の各種支出に加え教育研究用固定資産にかかる減価償却額が含まれている。また附属病院については医療経費がある。これらの経費は教育研究活動の維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましい。なお、高等学校法人等では、教育研究経費と管理経費を区分していない場合もあり、この場合は両者を合算した「経費比率」として分析を行うこととなる。
管理経費比率	経常収入に対する管理経費の占める割合である。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。なお、管理経費と教育研究経費の区分、両者を合計した経費の支出状況や減価償却の程度等にも留意が必要である。
借入金等利息比率	経常収入に対する借入金等利息の占める割合である。この比率は、学校法人の借入金等の額及び借入条件等によって影響を受け、貸借対照表の負債状態が事業活動収支計算書にも反映しているため、学校法人の財務を分析する上で重要な財務比率の一つである。借入金等利息は外部有利子負債がなければ発生しないものであるため、この比率は低い方が望ましいとされる。
事業活動収支差額比率	事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合であり、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。このプラスの範囲内で基本金組入額が収まっていれば当年度の収支差額は収入超過となり、逆にプラス分を超えた場合は支出超過となる。この比率がマイナスになる場合は、当年度の事業活動収入で事業活動支出を賄うことができないことを示し、基本金組入前の段階で既に事業活動支出超過の状況にある。マイナスとなった要因が臨時的なものによる場合は別として、一般的にマイナス幅が大きくなるほど経営が圧迫され、将来的には資金繰りに支障をきたす可能性が否めない。

基本金組入後収支比率	事業活動収入から基本金組入額を控除した額に対する事業活動支出が占める割合を示す比率である。一般的には、収支が均衡する100%前後が望ましいと考えられるが、臨時的な固定資産の取得等による基本金組入れが著しく大きい年度において一時的に急上昇する場合もある。この比率の評価に際しては、この比率が基本金組入額の影響を受けるため、基本金の組入状況およびその内容を考慮する必要がある。
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金の経常収入に占める割合である。学生生徒等納付金は、学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の事業活動収入のなかで最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることが少ない重要な自己財源であることから、この比率が安定的に推移することが望ましい。この比率の評価に際しては、同時に学生生徒等納付金の内訳や学生生徒等1人当たりの納付金額、奨学金の支出状況も確認することが重要である。
寄付金比率	寄付金の事業活動収入に占める割合である。寄付金は私立学校にとって重要な収入源であり、一定水準の寄付金収入を継続して確保することが経営の安定のためには好ましいことである。しかし、寄付金は予定された収入ではないため年度による増減幅が大きくなる。周年事業の寄付金募集を行っている場合、事業の終了後に寄付金収入が大きく落ち込む例が典型的である。今後の学校経営においては、学内の寄付金募集体制を充実させ、一定水準の寄付金の安定的な確保に務めることの重要性が高まっている。
経常寄付金比率	上記寄付金比率につき経常的な要素に限定した比率である。
補助金比率	国又は地方公共団体の補助金の事業活動収入に占める割合である。学校法人において、補助金は一般的に学生生徒等納付金に次ぐ第二の収入源泉であり、今や必要不可欠なものである。私立学校が公教育の一翼を担う観点からも今後の補助金額の増加が大いに期待されている。しかしこの比率が高い場合、学校法人独自の自主財源が相対的に小さく、国や地方公共団体の補助金政策の動向に影響を受け易いこととなるため、場合によっては学校経営の柔軟性が損なわれる可能性も否定できない。
経常補助金比率	上記補助金比率につき経常的な要素に限定した比率である。
基本金組入率	事業活動収入の総額から基本金への組入れ状況を表す比率である。大規模な施設等の取得等を単年度に集中して行った場合は、一時的にこの比率が上昇することとなる。学校法人の諸活動に不可欠な資産の充実のためには、基本金への組入れが安定的に行われることが望ましい。したがってこの比率の評価に際しては、基本金の組入れ内容が単年度の固定資産の取得によるものか、第2号基本金や第3号基本金にかかる計画的な組入れによるものか等の組入れの実態を確認しておく必要がある。
減価償却額比率	減価償却額の経常支出に占める割合で、当該年度の経常支出のうち減価償却額がどの程度の水準にあるかを測る比率である。一方で、減価償却額は経費に計上されているが実際の資金支出は伴わないものであるため、別の視点では実質的には費消されずに蓄積される資金の割合を示したものと捉えることも可能である。
経常収支差額比率	経常的な収支バランスを表す比率として新設
教育活動収支差額比率	本業である教育活動の収支バランスを表す比率として新設

活動区分資金収支計算書関係比率

関係比率	27年度決算	28年度決算	29年度決算	30年度決算
教育活動資金収支差額比率	△4.7%	△1.0%	△24.7%	△52.2%

教育活動資金収支差額比率…教育活動資金収支差額÷教育活動資金収入計

活動区分資金収支計算書関係比率の説明（日本私立学校振興・共済事業団から抜粋）

教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローを生み出せているかを測る比率である。比率はプラスであることが望ましいが、「その他活動」でキャッシュフローを生み出し、教育研究活動の原資としている場合もあり得るため、「その他活動」の収支状況を併せて確認する必要がある。
--------------	---

監査報告書

学校法人原田学園

理事長 原田博史 殿

作成日 令和 / 年 5 月 29 日

学校法人原田学園

監事 小野 聡 

監事 三尾 恢弘 

私は、私立学校法第37条第3項の規定に基づいて、学校法人原田学園の平成30年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書）を含め、学校法人の業務及び財産に関し監査を行いました。

監査の結果、学校法人の業務及び財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以 上

監査報告書

学校法人原田学園
評議員会議長 殿

作成日 令和 / 年 5 月 29 日

学校法人原田学園

監事 小野 聡 

監事 三 尾 懐 弘 

私は、私立学校法第37条第3項の規定に基づいて、学校法人原田学園の平成30年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書）を含め、学校法人の業務及び財産に関し監査を行いました。

監査の結果、学校法人の業務及び財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以 上